

巻頭言

2020 年は新型コロナウイルスに世界中がかき乱されました。金沢大学がん進展制御研究所では、2020 年 2 月末に予定されていた共同利用・共同研究拠点の成果報告会が急きょ中止になったことが最初の影響でした。その後、シンポジウム、招待講演、セミナーなどが次々にオンライン開催となりました。研究所のスタッフや学生の皆さん、研究所を支える活動をされている事務の皆さん、私自身も含め、予期せぬ小さな失敗を経験しながらも、それらの失敗を次に活かすことで、新しいことに対応できるように変化していました。

本研究所は、1967 年に「がんに関する学理およびその応用の研究」を理念に設置されました。国立大学附置研の中で唯一、がんの研究に特化した研究所として、「がんの悪性化進展機構」に焦点をあてた基礎研究、基礎研究から見出される分子・モデル・技術シーズを活用した革新的な診断・治療法の研究、将来のがん研究や医療を担う人材育成を使命として活動しています。2010 年に文部科学省から「がんの転移と薬剤耐性に関する先導的共同研究拠点」として認定されて以降は、共同利用・共同研究拠点としての活動も担っています。令和 2 年度、66 件の共同研究課題を採択し、その内 28 件を若手研究者枠として支援しました。また、国際共同研究に加えナノ生命科学研究所と共同で異分野融合研究枠を新設し、若手人材育成や分野融合の研究を推進することに努めました。令和 2 年度の共同利用・共同研究拠点成果報告会を 2021 年 2 月にオンライン形式で開催しました。

このほか、本研究所では若手研究者等の研究の活性化を図る取り組みとして、「オンコロジーセミナー」を開催し、准教授、助教、若手 PI が年に 1 回、自身の研究について発表する機会を設けています。どんな新たな展開があるか、どんな新しいテクノロジーが使われるか、どんな難しさがあるか、これらが共有される切磋琢磨の時間です。また、2020 年 9 月に、大学院生による発表・討論を主体にする「がん研コロキウム」を開催しました。研究に対する大学院生の活発な姿勢が感じられる機会でした。2020 年 11 月には、金沢国際がん生物学シンポジウムをナノ生命科学研究所と合同で開催しました。欧州・北米・アジア、そして国内から著名な研究者を招き、オンライン形式による開催でした。欧州や米国の研究者による講演が含まれるセッションは、日本時間の夕方あるいは朝早めの時間に設定されました。国内外から 200 名近い参加者があり、活発な研究交流の機会となりました。これらの活動は、私たちの研究所の研究力強化、人材育成、国際ネットワーク形成につながっています。

2020 年の各研究分野の活動状況をがん研年報としてここに報告いたします。本研究所では着実に研究が進展していると思います。本研究所の活動や取り組み、研究の進展について皆さまにご理解いただく機会となれば幸いです。

金沢大学がん進展制御研究所長 松本邦夫